

臨地実習について

－検査技術学専攻をもつ大学の附属病院の立場から－

◎原 稔晶¹⁾

国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院¹⁾

現在当院では名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻（以下、名大保健学科）の学生約 40 名の臨地実習を毎年担当しており、他大学からの臨地実習の受け入れも行っている。

名大保健学科の臨地実習では約 5 名が 1 グループとなり、8 つの部署をそれぞれ 1 週間かけて実習するスケジュールで、検査室のスタッフは約 2 か月間業務と実習を並行して行うこととなる。

病理検査室の実習内容は 1～2 名ずつで病理部門の中のそれぞれの作業工程（受付、切り出し、包埋・薄切、染色、迅速標本作製、細胞診）をローテーションしながら見学や一部体験をしてもらっている。

実際に病理・細胞診業務が行われている現場に身を置き、学校で学ぶことができなかった事項を中心に実習することにより、幅広い知識と技術を習得するとともに、医療スタッフとしての倫理観を養うことを実習の目的としている。

今回は当院での具体的な実習内容を紹介するとともに実習における問題点や今後の課題などを挙げさせていただき、皆様と臨地実習について考えるよい機会になればと思っている。

連絡先：名古屋大学医学部附属病院 医療技術部臨床検査部門 病理検査室 TEL052-744-2582